

12月定例会においては、12人の議員が一般質問を行い、市政について質しました。
質問・答弁の内容は質問者本人が要約したものです。



一般質問



ココが聞きたい!!

- ◆ 金田 淳一 議員 4
- ◆ 市体育館廃止とサンテラ指定管理について
- ◆ 中村 良夫 議員 5
- ◆ 米山県知事に直接要望を
- ◆ 山田 伸之 議員 5
- ◆ いじめ・不登校問題の解決と幼児教育の推進
- ◆ 渡辺 慎一 議員 6
- ◆ 不祥事多発は市長のガバナンス欠如による
- ◆ 荒井 眞理 議員 6
- ◆ 人口減少対策のため予算シフトの努力を
- ◆ 宇治 沙耶花 議員 7
- ◆ 孤立の子育て、高齢者への無関心を防げ
- ◆ 北 啓 議員 7
- ◆ 社会のニーズに合った子育て支援を
- ◆ 上杉 育子 議員 8
- ◆ 農業政策について
- ◆ 中川 直美 議員 8
- ◆ 住民合意のない社会教育施設の廃止解体は
- ◆ 室岡 啓史 議員 9
- ◆ PDCAサイクルで見える化と改善を
- ◆ 祝 優雄 議員 9
- ◆ 市長の政治姿勢について
- ◆ 近藤 和義 議員 10
- ◆ ダビンチ手術の導入と特養ホームの増床を

【お詫びと訂正】

議会だより第54号の7ページ坂下善英議員の一般質問中、「28億円」を「2億円」に訂正し、お詫びいたします。

一般質問

市体育館廃止と

サンテラ指定管理について

金田 淳一 議員



【質問】 公共施設存続を求め、議会への請願や陳情が相次いでいる。体育館や公民館の廃止や統合は計画によるものなのか。また、地元説明会が一時中断した理由は。

【市長】 平成22年3月に策定した行革大綱の第2次集中改革プランにより行っている。

【社会教育課長】 具体的なスケジュールを固めるまでに時間を要したからである。

【質問】 「合併特例債を活用して施設解体をするために急いでいる」との答弁だが、施設の有効利用を図るべき立場からすると優先順位が違うのではないか。

【教育長】 財政的な面は必ずつきものと考えて。利便性を保つことは常に感じている。代替えで使える場所を確保しようと交渉している。

【質問】 平成22年当時と比べると国仲地区の体育館の需要は大きくなっている。新設されたサンテラはバスケットコート3面を保有する大規模な施設だが、佐和田・真野・新穂を廃止すれば6面が無くなる。サンテラは大会等が日常的に開催され、地区体育館利用者へは制限がかかっている。また、金井や畑野地区には学校体育館しかないで、常に活動場所が不足し、真野や新穂体育館を使っている。廃止により活動が出来るようになるとの声が私の元にも届いている。

【社会教育課長】 利用団体と調整をしているが、基本的には現状の体育館で確保できると思う。

【質問】 利用希望調査ではジュニア団体週2コマ、成人団体週1コマ(約2時間)

しか認められない。活動が活発なところは全く足りない。閉校した後山小や来春閉校する沢根小体育館を暫定的に開放し、利用者に安心感を与えるべきではないか。

【市長】 既存の学校体育館に土日も含めてどこまで一般開放をできるかをはめ込んでみて、更にということになれば検討する。

【質問】 サンテラの指定管理について、施設の設定目的に沿って子どもから高齢者までの健康推進、スポーツ活動に寄与する形態を維持、向上するべき。単に経費節減目的では意味がないのではないか。

【市長】 ご指摘の部分は大前提である。これまで以上にイベント誘致など新たな柔軟な発想のもとでフル活用されることを求めたい。



10月の台風21号で越波により冠水する県道

一般質問

米山県知事に直接要望を

中村 良夫 議員

【質問】 県道佐渡一周線、柿野浦から松ヶ崎間の道路整備について問う。50年に一度の大雨により集落が孤立となり、さらに10月の台風21号で越波による県が管理する道路が冠水し、同地域の被害が拡大、迂回路もなく、全面通行止めとなった。

【市長】 県知事に対しては、7月の豪雨災害の直後に前浜方面の孤立した部分も含めた直接具体的な要望をした。今後も想定できない甚大な災害の発生確率は高まると思われるので、同様に訴えていく。

【市長】 林道小佐渡線（7月の豪雨災害で崩れた）は可能な限り早急に修復、復旧作業を進める。復旧すると下の方へ迂回しながらおりられる道につながる。

【質問】 災害時に迂回路無し

【市長】 様々な材料を調査した上で検討を続けていく。

一般質問

いじめ・不登校問題の解決と 幼児教育の推進

山田 伸之 議員

【質問】 いじめ、不登校、ひきこもりの数は依然として多い。2年前より提案している子どもに関係する機関が参加する「子ども若者地域支援協議会」を設置し、根本的な解決に向けて本腰を入れて取り組むべきと考えるがいかがが。

【市長】 来年度にこの問題に特化したプロジェクトを立ち上げる。協議会は既存の組織を結びつけることを含め、プロジェクトの中で考えていく。

【市長】 市民の理解を得て推進していくべきもので、公立については現在幼稚園のある地域について進めることが望ましいと考えている。まずは施設の老朽化等により移転、新築を検討している相川地区から進めていきたい。

【市長】 様々な材料を調査した上で検討を続けていく。

【市長】 現在の政府・与党は幼児教育の無償化を進めている。佐渡の将来を見据え、自然豊かな環境を活かした幼児教育の拠点となる認定こども園を、各地域に進めるべきと考えるがいかがが。

【市長】 現在羽茂地区にて月1回の開催だが、将来的には毎日行い、放課後児童クラブとの統合を図るような形に拡大したいと考えている。

一般質問

渡辺 慎一 議員

不祥事多発は市長の ガバナンス欠如による



〔質問〕 次年度の予算編成の一律15%カットの真偽を問う。

〔市長〕 平成30年度の予算編成において、普通交付税の減少など一般財源の減少が見込まれる。特定財源はもとより、選択と集中による一般財源の抑制が必要となる。その際の目安となる数値として一般財源ベースで示したもので、事業予算を一律にカットすることではない。

〔質問〕 上半期の財政状況について問う。

〔市長〕 特定国境離島地域社会維持推進事業、豪雨災害復旧経費、経済対策事業等で前年に比べ62億円増加している。地方債や財政調整基金により財源手当てしたので基金は減少している。

〔質問〕 耐震に関する現状認識と今後の計画を問う。

〔市長〕 現庁舎の耐震性は新耐震基準で建築しているのが問題はないが、耐震安全性はI類に上げる工事として屋根の鉄骨補強工事、耐震スリットを設ける計画だ。

〔市長〕 合特債期日までの公共施設駆込み取り壊しについて、もっと丁寧な説明が必要と思うがどうか。

〔市長〕 議会や地域審議会への説明も以前から行ってきた。説明会のあり方や進め方については、改善に努めていく。

〔質問〕 副市長2人制・部長制の成果は上がっているか問う。

〔市長〕 副市長2人に事務処理を分担させているので、処理のスピードアップに効果が上がっている。また、部長制は不十分かもしれないが縦割り行政の弊害解

消、庁内の連携、事務調整がスムーズに行われている。

〔質問〕 不祥事多発は市長の統治の欠如から来ると思うがどうか。

〔市長〕 職員は、公務員、社会人として法令、服務規程を遵守することは当然である。また、全体の奉仕者として職務に専念し、市民の負託に応えることが求められている。こうした公務員としての責務を自覚させるよう指導する。

〔質問〕 私は統治ができないのは市長のせいだと言っているのだがどうか。

〔市長〕 最終的に全ての責任は私だと思っている。

〔質問〕 昨年、出生数は333人で危機的では。子ども若者課長 年間目標出生数は440人だが、子育てにお金がかかり過ぎるという回答が上位である。

〔質問〕 2人目、3人目の出生に成功している市は非常に苦勞し予算配分シフトをしている。例えば佐渡市は下水道整備工事を進めているが過去3年で接続率は1.3%しか増えていない。こういうものを止めないか。

〔市長〕 状況を確認しながら修正、変更する。必要な部分には当然財源を充てる。

〔質問〕 道徳教育は来年度から子どもの心の中も評価するようになる。市が選定した教育出版の教科書は教育界などで特に問題点がいくつか取り上げられていたが市の採択協議会では議論にならなかったのか。

〔市長〕 道徳教育は来年度から子どもの心の中も評価するようになる。市が選定した教育出版の教科書は教育界などで特に問題点がいくつか取り上げられていたが市の採択協議会では議論にならなかったのか。

〔質問〕 個々のことについて検討していない。

〔質問〕 協議会で教育長は、この教育出版がよいと積極的に発言しておられる。この教科書には現職の首相が写真に写っており、政治的である。教科書の条件は、政治的な援助や助長となる恐れがあるところはないか。確認をしなければいけない、とされている。現役の首相にこれからもし何か事件が起きたら道徳の教科書に載ることがふさわしくないと考えないか。

〔教育長〕 検定基準に合格していると考えている。

〔質問〕 男女共同参画計画が、実行できておらず問題だ。女性がリーダーシップを担い、地域社会に参画することが若手女性の流出を防ぎ、持続可能な地域を作るとも言われている。市の

実態はどうか。

〔市長〕 状況把握等は完璧でないが女性は弱者だと思っていない。

〔子ども若者課長〕 DV相談の中で女性の割合は高く、子どもたちの面前での暴力行為の相談が多く課題だ。

〔質問〕 子どもの安心、自信、自由が保障されず問題では。現在では完全に保障されていない。

〔質問〕 昨年の外部監査以降も行政の計画、実行、評価、改善と、公平、明瞭、透明の実質化がされていない。補助金手続きの問題だけでなく、要綱や計画をひっくり返し、例えばワイドブルーあいかわの7600万円の改修費の補正予算説明もしなかったのは問題である。

〔市長〕 甘さがあったか反省し、お詫びするしかない。

一般質問

荒井 眞理 議員

人口減少対策のため 予算シフトの努力を



〔質問〕 昨年、出生数は333人で危機的では。子ども若者課長 年間目標出生数は440人だが、子育てにお金がかかり過ぎるという回答が上位である。

〔質問〕 2人目、3人目の出生に成功している市は非常に苦勞し予算配分シフトをしている。例えば佐渡市は下水道整備工事を進めているが過去3年で接続率は1.3%しか増えていない。こういうものを止めないか。

〔市長〕 状況を確認しながら修正、変更する。必要な部分には当然財源を充てる。

〔質問〕 道徳教育は来年度から子どもの心の中も評価するようになる。市が選定した教育出版の教科書は教育界などで特に問題点がいくつか取り上げられていたが市の採択協議会では議論にならなかったのか。

〔市長〕 道徳教育は来年度から子どもの心の中も評価するようになる。市が選定した教育出版の教科書は教育界などで特に問題点がいくつか取り上げられていたが市の採択協議会では議論にならなかったのか。

〔質問〕 個々のことについて検討していない。

一般質問

宇治 沙耶花 議員

孤立の子育て、 高齢者への無関心を防げ



【質問】 佐渡で初めて子育て支援を担うNPO法人が設立された。現在、子育て支援情報を収集、提示できる仕組みが無い。今後はNPO法人や民間と協働で、子育て支援事業を展開すべき。

【市長】 議員ご指摘のとおり。市も今年度から子ども若者課がスタートした。協働体制を組み立て、一体化した子育て支援に繋げていく。

【質問】 放課後児童クラブで外遊びができない。視察した妙高市は、佐渡の現状を「子どもの溢れるエネルギーをどうしているのか」と驚いていた。一歩成長して欲しい時期に外遊びができない状況は変えなければならぬ。市長の政策として打ち出すべき。

【市長】 関係者の合意形成を

し、実践のかたちに持つていければと考えている。

【質問】 学力低下が懸念されている。放課後に学習支援を導入すべき。

【教員長】 外部人材を活用し、実施していきたい。

【質問】 認知症等で判断能力が失われた身寄りの無い高齢者等、成年後見制度を必要とする人が増えている。成年後見センターは業務過多で、新規受任ができない状況だ。対策は何か。

【社会福祉課長】 他の法人が法人後見に取り組んでもらえるよう、受け皿を広げていく。

【質問】 後見人は延命治療の判断はできない。全国の自治体でも終末期が課題であり「事前指示書」を導入している。医療機関は「事前指示書」を尊重して処置を行う。佐渡病院へ心肺停止

での救急搬送が激増している中、市は積極的に意思決定支援に取り組むべき。

【市長】 専門家の知識も借り、意思決定支援の環境強化をしていく。

【質問】 意思決定支援を地域包括ケア推進室の仕事とすべき。

【市長】 推進室の役割としてしっかりと努めていかなければならない。

【質問】 認知症高齢者(推計)・障がい者の人数

- ①認知症高齢者(H26.3.31現在)=3,486人(推計値)
※上記推計値を算出するにあたり「都市部における認知症有病率と認知症の生活機能障害への対応」総合研究報告書の計算式を引用。
- ②知的障害者(H26.4.1現在)=546人(手帳所持者)
- ③精神障害者(H26.4.1現在)=483人(手帳所持者)

提供：佐渡市社会福祉協議会 成年後見センター

一般質問

北 啓 議員

社会のニーズに合った 子育て支援を



【質問】 子育て中の保護者の方々と意見交換をさせていただいた。「佐渡は自然も多く、子どもを育てるには良い環境だ。ただ、今まで住んでいた自治体では病児保育があり、共働きでも安心し、勤めることができた。しかし、今はパートしかできず、やりたい仕事ができない」という意見があった。また、シングルの友人から、「子どもの風邪が長引き、治ったと思ってもまたぶり返し、突発的な休みも必要となる。正社員にもなかなか休まずに、休みが多いと翌月の給料が少なく問題だ」と聞いた。今困っている人たちがいる中で病児保育を来年度より始めるべきだと思いが、いかがか。

【市長】 子どもが病気になった時は保護者の方に看護していただきたいと考えている。

【質問】 子育て中の保護者の確保が難しく、速やかに実施できる環境・体制にはない。

【質問】 看護師の不足について理解はしているが、他自治体が実施しているように病院と連動し、実施することは検討できないか。

【子ども若者課長】 公立で病児保育を行っているところは大体病院にあるという状況だ。具合の悪い子どもがいる時は保護者から見ているべきというところを念頭に置いているので、病院に特段の打診というものはしていない。

【質問】 子どもが病気の時

と・しごと創生人口ビジョンのアンケート結果でもあるように、子育てと仕事の両立が難しいと言われている。考え方を改めるべきではないか。

【子ども若者課長】 企業によって色々な環境があると思うので、民間事業所を含めて、総合的な考えのもとに施策として考えていくべきものと思う。

【質問】 看護師が充実すれば病児保育を実施する考えはあるか。

【子ども若者課長】 医療機関でも足りない状況である。医療機関の看護師が充実した中で、病児保育へ回つてもらえる人材がいるとすれば、開設について前向きに考えたいと思っている。

【市長】 子どもが病気になった時は保護者の方に看護していただきたいと考えている。

【質問】 子どもが病気の時

どうしようかと悩んでいる方が実際多くいるのが現状だと思う。佐渡市まち・ひ

どうしようかと悩んでいる方が実際多くいるのが現状だと思う。佐渡市まち・ひ